

秋田工業高等学校 中期ビジョン（5か年計画）

本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

① 学校の現状や課題

本校は、明治37年、工業技術者の養成を目的に創立され、110年を超える歴史において、秋田県や日本のみならず、世界の様々な地域で産業界はもとより経済界やスポーツ界をはじめとするあらゆる分野に3万有余名の同窓生を送り出している全国屈指の工業高校である。

「質実剛健」の校訓のもと、学校内には生徒の元気のよい挨拶が響き渡り、活気が満ちている。生徒は学業と部活動の両立を高い次元で志している。全国優勝15回のラグビー部、全国高校駅伝出場21回の陸上競技部をはじめ、全国大会に秋田県代表として出場する部活動が多く、それらの活躍は本校関係者のみならず地域住民や県民に大きな活力と勇気を与えている。また、部活動で身に付けた体力と精神力、工業学科で培った実践力や普通教科の学力、数多くの資格取得などに裏付けられた人間力は、就職・進学において大いに実績をあらわし、進路先で高い評価を得るなど、その人材育成について秋田県工業高校の中心校として存在を顕かにしている。

しかし、全校生徒数(全日制)は平成4年度の1258人をピークに減少をたどり、平成28年度においては627人と、四半世紀の間に半減した。情報技術科閉科、定時制課程の募集停止、材料技術科閉科、1学級定員35人へと変遷しての生徒数減少は、学校の活力の減退に少なからず影響を及ぼしてきているのではないかと考えられる。中学校卒業者の減少は今後も続くことから、入学者の確保への影響が懸念されるとともに、継続した地域社会への人材供給が危惧される。

平成30年に校舎改築工事が完了し、ものづくりにおける施設設備が整備される。その環境を有効に活用した学習活動を行い、特色ある学校づくりを一層充実していくことが求められる。

② 学校を取り巻く将来の状況の予測

少子化によって入学者の減少が予想される中、今後5年間で秋田市内の中学生は200名を超す減少が予測されている。本校から地域産業に有為な人材を継続して送るためには、募集人員確保は大きな課題といえる。

また、本県において、人口減少の要因の一つに18歳年齢人口の県外流出がある。平成27年度の本校卒業生の県外転出率は、55%（91/199名）と県平均48%と比してもかなり高く、県内外の比率を県内側に向けなければならないと考える。

さらに、4年後の東京オリンピック・パラリンピックが終了すれば全国的に求人数の減少が予想される。特に本県の県内就業人口の受け皿が減少した場合、優れた技術や技能を持った優秀な若者がますます県外に流出することが懸念される。先を見通した対応が求められるとともに、若者の地元定着は急務である。

本県産業(工業)の若い担い手育成の観点から航空機産業に特化した学科再編も見据えて学校の将来像を構築する必要がある。

③ 目指す方向性や学校像

一人一人の人格の形成を目指し、秋田県や日本のみならず国際社会に貢献し、工業界の発展に寄与する人間の育成に努める。

- ・心身ともに健全で豊かな人間性を持ち、社会の変化に柔軟に対応できる人材を育成する。
- ・真理を追究し、将来のスペシャリストにつながる専門分野の基礎的技術・技能を習得し、実践と創造を重んずる人材を育成する。
- ・キャリア教育を通して、地域社会の期待に応え、自ら学ぶ力や生きる力を身に付けた自立した職業人を育成する。
- ・コミュニケーション能力を培い、国内外で活躍できる人材を育成する。

④ 5年間を通しての具体的目標

- ・ものづくりコンテスト、ロボット競技、エコカーレース、建築設計コンクールなどものづくり系の大会で優勝を目指す。
- ・3級技能士、2級施工管理技士、第2種電気工事士の多数の合格と、2級技能士、第1種電気工事士、測量士補、甲種危険物取扱者等の高度な資格取得の合格率100%を目指し、各学科における秋工技能スタンダードの100%達成を目指す。
- ・就職・進学ともに決定率100%を維持する
- ・部活動においてラグビー部の全国優勝、陸上競技部の全国入賞、各部の全国出場を目指す。
- ・英検準2級相当以上の英語力を有する生徒の割合を40%以上を目指す。
- ・ISO14001の取得を学校全体で挑戦する。

具体的な取組等

○ものづくり教育の推進

- ・「ものづくり工房」の活用により、各学科のものづくりを融合させ、学科の枠を越えた創造的なものづくりを実践する。
- ・親子ものづくり教室、実習施設設備の開放教室などを開催し、地域に開かれたものづくりの場を提供する。
- ・高齢化社会の到来を見据え、福祉関係の施設と連携して、各学科が福祉・介護等の現場で必要とされる器具の設計・開発や製作に参画する。
- ・他の専門高校（商業・農業）と連携し、商工連携、農工連携による製品開発やマーケティングの実習を行い、秋田県の6次産業化を考える。

○ボランティア活動を通じた地域貢献

- ・地元町内会や関係機関と連携して神社清掃及び除雪ボランティアを実施する。
- ・取得した資格や学習成果を活用して地域での技術ボランティアを実施する。
- ・地域の祭典等への積極的な参加を促し、伝統文化の継承と地域や他者を重んじる心と社会性の育成を図る。

○キャリア教育の推進

- ・これまでのインターンシップに加え、地域企業の協力を得ながら長期インターンシップも取り入れる。
- ・企業と連携した現場見学や技術研修会により最先端の技術に触れさせながら、各学科の専門性とガイダンスの一層の充実を図り、自己の能力、適性により主体的に進路選択ができるようにする。
- ・卒業後の職業を意識し、将来のスペシャリストにつながる資格取得を推進する。
- ・小・中学校から継続しているキャリアノートを活用し、ふるさと秋田の良さを再認識させ、専門的職業人として活躍できる資質・能力の向上を目指す系統的なキャリア教育の充実を図る。

○グローバルに活躍できる人材の育成

- ・国内外で行われる各種研修への参加を促し、国際的感覚をもった人材を育成する。
- ・ALT との交流の場を増やしたり Skype を積極的に活用し海外との交流を図るなどして、英語コミュニケーション能力の向上に努め、「使える英語」習得を目指す。
- ・TOEIC-Bridge テストをはじめとした英語に関する各種検定試験に積極的に取り組む。

○豊かな心と確かな学力

- ・家庭や地域の協力を得て、学年及び各学科との連携を強化し、学校全体できめ細かな生徒指導を行う。授業やホームルーム活動、校門指導等で基本的な生活習慣を身に付けさせ、相手を思いやる豊かな心をもった人材を育成する。
- ・特別支援教育コーディネーターの増員をはかり、全職員で研修を実施し多様な生徒に対応できる指導体制を構築する。
- ・朝学習、放課後補習に加え、朝、昼補習を実施し、生徒個々に応じた教科指導により学力向上を目指す。
- ・必要に応じて「学び直し」を計画実践し、学習意欲を高め、基礎的な学力の定着を図る。
- ・工業系大学、特に国公立大学進学希望者への補習等の支援を充実させる。

○部活動による学校の活性化

- ・部活動を通じた人間形成の充実を図るとともに、運動部、文化部ともに生徒が向上心と創意工夫をもって活動することで、学校の一層の活性化を目指す。

○秋田工業高校の特色を生かした教育活動

- ・地域、企業、異種教育機関とのネットワークを活用した事業の展開
高度熟練技能者等の外部講師による出前授業や出前実習を実施する。
大学や県の研究機関の最新設備を活用した実習を実施する。
- ・新エネルギー教育・環境活動 ISO14001 の実践
新エネルギー活用システム（太陽光発電装置）による実験・実習を実施する。
エネルギーや資源の有効活用などを意識した環境教育の実践や3R（廃棄物の減量化、再使用、再資源化）など環境に配慮したものづくりを実践する。
- ・「植物工場ユニット」の新設により、企業、大学、農業高校との連携を行い、各学科の枠を越え、次世代の野菜づくりに挑戦する。

